

# タブレットを活用した児童生徒が能動的に使用できる音読教材の開発

2110063 竹下亜沙美 (齋藤研究室)  
初等教育教員養成課程 情報選修

## 1. はじめに

近年、教育現場における ICT 環境の整備および ICT を活用した授業の取り組みが進められている。文部科学省は『教育の情報化に関する手引き』(文部科学省, 2010) の中で、社会の情報化に対応するための目標を定め、平成 26 年から 29 年までの間に学校内の ICT 環境の目標水準を明確にし、コンピュータの設置、無線 LAN の整備、1 人 1 台の端末の確保などを目指している。ICT 機器を活用した授業についても、様々な実践が行われており、特に電子黒板やタブレット PC を使用した実践が盛んである。しかし一方で、電子黒板やタブレット PC で使用できる教材は、教科書会社からのデジタル教材や教師の自作教材で、実際に教師や子どもたちが授業や家庭学習などで活用できる教材は少ない。ICT 環境の整備は具体的に進んでいるものの、ICT 環境を効果的に活用できる教材の開発が課題となっている。

本研究ではこれらの課題に対応するため、タブレット PC を使用する子どもたちの能動的な学習を支援する教材を開発する。

## 2. 背景と目的

国内のタブレット PC を用いた実践について調査した結果、主要 5 教科の中で国語の実践が少ないこと、また、国語科の実践において声に出す活動の実践が少ないことが明らかになった。そこで本研究では、国語科における音読教材の開発を行う。音読教育について、天久 (1992) は、言語教育の基礎は国語から形成されており、国語科の充実の重要性を述べている。さらに、言語教育は音読指導によって子どもたちに築かれていくとし、これまでの音読指導の実践時間が少ないことを指摘した。その上で、国語科の授業内において効果的な音読指導を取り入れることで、教材文の豊かな読みの工夫や深い理解ができるかを実践した。

実践では複数のタイプの音読指導を取り入れ、また振り返りや間(ま)の理解など様々な活動を取り入れていた。授業実践のアンケートから、音読を

上手だと感じた児童や、音読を通して話の内容をより理解したと感じた児童が半数以上になり、音読に対する意欲も向上したことが明らかになった。

この実践から、丁寧で効果的な音読指導は、児童の音読に対する自信をつけたり深めたりする活動でもあり、教材文の内容をより理解する活動でもあるということが示された。

また、従来の音読教材として範読が録音されている CD があるが、複数の音読方法に対応しているものではなく、子どもたちが自分で練習のために利用できるような機能がついていない。

先行研究で行われてきた音読指導の実践からは、複数タイプの音読を指導していることや、音読の振り返りなどの活動が含まれていた。本研究では、それらの実践を踏まえ、開発する教材の機能を考える。また、従来の音読教材では、音読指導で行われているような機能があまり含まれていなかった。本研究では、それらの問題点をカバーする機能を付け、学習者にとって使いやすい教材を目指す。

## 3. システム概要

### 音読の種類

文部科学省では、音読指導を 13 種類に分けてそれぞれの指導方法を示している。13 種類の音読指導の中で、基本的な音読指導であり、また相手がいらない練習を支援できるような以下の 3 つを採用して教材の開発を行う。

- 一斉読み：(教室内) 全員で声を揃えて読む
- 一文読み：一人一文のリレー読み
- 役割読み：物語・小説で行い、会話文と地の文、また登場人物を担当して読む

### 教材文

教材文には、説明的文章、物語・小説、詩を用意し、基本的な音読の種類を考慮した上で、以下の文章を選定した。

- 「ダイコンは大きな根？」(稲垣, 2014)
- 「海の命」(立松, 2014)
- 「おれも眠らう」(草野, 2014)

### システム

システムは Android で動作する。システムには、

従来の音読教材との差別化を図るため、以下の機能を付けた。

- チュートリアル：使い方を説明する機能
- 教材選択：音読したい教材を選択する機能
- 音読練習の種類を選択：音読の種類を選択する機能
- 自己評価：音読の振り返りを行う機能
- ↓（やじるし）機能：テキストの再生部分を追いかける機能

#### 評価方法

音読教材は、国語選修、国語・書道専攻、特別支援学校教員養成課程・国語免許の学生3名に使用してもらい、記述式アンケート用紙とインタビューで評価を行なった。

#### 4. 結果と考察

アンケートとインタビューの結果を機能、インターフェイス、活用場面の3つの観点で整理し、考察を行う。

##### 機能

タブレットPCの使用を最大限に利用した中で好評だった機能は、自己評価と「↓（やじるし）」であった。

自己評価は、学習者が音読練習を終えた後、すぐにフィードバックできる点や、過去5回分の自己評価の点数が表示されることが高評価につながった。音読練習の成果が目に見えるため、音読練習に対する意欲が湧きやすくなるだろう。自己評価の他にも、他者評価の画面やコメント欄を付けてみてもよい、という意見もあった。

「↓」が自動で動く機能は、再生される音声とともに、テキスト上の上部を動いて、音読されている部分分かるため、迷うことなく音読できたという点が評価につながった。しかし、教材文によっては、「↓」が小さくなってしまったり、テキストとズレが生じてしまったり、見にくいという意見もあった。

また、音読練習の種類では役割読みの評価が高かった。役割読みでは、地の文を女声と会話を男声で録音し、再生している点が評価につながったと考えられる。登場人物の感情の変化を捉えることができ、豊かに音読することができるという意見があった。物語・小説の教材文に役割読みは有効であり、実用化しやすいだろう。

##### インターフェイス

全体的にシンプルで使いやすいという意見があったが、シンプルだけに寂しいという印象を抱いた意見もあった。教科書には挿絵があるが、今回の音読教材にはテキストのみで挿絵がなかったことが寂しい印象の原因になった。さらに、タブレットPC特有のスワイプやズームという機能がなくボタンを押す操作のみだったために、スマートフォンを使いこなしている人たちにとっては操作性に物足りなさを感じているようだった。

##### 活用場面

開発した音読教材を活用できそうな場面は、こちらがおおよそ予想した通りの意見があがった。1人1台にタブレットが配布されたという想定ならば、授業中の使用の他にも家庭学習の宿題として使用できる。また、授業中の場面でも、特に初読の時間に使用すると効果があるのでは、という意見があった。初読の時間に使用するならば、初めて扱う漢字には振り仮名を付けるといった工夫も考えられるだろう。また、授業中に個別で音読練習をするときにも活用することができる、という意見があった。これまでの授業の音読で、大きい声を出すことができずにいた子どもも、この音読教材があれば自分のペースで確実に音読練習をすることが可能になるだろう。

#### 5. おわりに

本研究では、タブレットPCで使用できる音読教材の開発をした。本研究における今後の課題を以下に記述する。アンケートに挙げられた改善点、修正点を参考に音読教材の改良を検討、追加していることである。また、実用化を目指した際に、従来の音読練習とタブレットPCでの音読練習の効果を比較し、タブレットPCが学習に有効であるかを検討していく必要がある。

##### 参考文献

- 天久敏子 (1992). 音読を重視して読む力をつける指導の工夫. 『【小学校】教育研究員 研究集録集』, 73-94. 宜野湾市教育委員会.
- 稲垣 栄洋 (2014). ダイコンは大きな根?. 『国語1』, 40-43. 光村図書.
- 草野 心平 (2014). おれも眠らう. 『国語1』, p. 63. 光村図書.
- 文部科学省 (2010). 『教育の情報化に関する手引き』. 文部科学省.
- 立松 和平 (2014). 海の命. 『国語 六 創造』, 190-201. 光村図書.